昭和26年3月12日第3種郵便物認可　平成26年7月1日発行（毎月1日発行）第64巻 第7号
ISSN 0913-9850

2014 Vol.64
7月号

MONTHLY かもつ

平成26年度 定時社員総会を開催

エアコンと冷蔵庫を鉄道コンテナ輸送で北海道、九州へ
三菱電機株式会社 静岡製作所

公益社団法人 鉄道貨物協会
日本貨物鉄道株式会社

公益社団法人 鉄道貨物協会

我が国の貨物輸送の分野について、物資の安定・供給及び地球環境負荷（輸送量当りのCO_2排出量）の観点から、輸送方法の研究及び研究成果の普及啓発活動を行い、以って国民の生活に不可欠な物資の安定供給及び地球環境の保全に資することを目的とする。

JR貨物

価値を運ぶネットワーク

私達は鉄道貨物輸送を基軸としてその未来における新しい役割を認識するとともにより総合的な物・価値・情報の交流を創造しお客様の信頼に応え豊かな社会の実現に貢献します。

Index

表2 土木・建築遺産

1 平成26年度 定時社員総会を開催
ご挨拶 公益社団法人 鉄道貨物協会 名誉会長 米倉 弘昌
ご挨拶 公益社団法人 鉄道貨物協会 理事長 米本 亮一
祝 辞 国土交通省 鉄道局次長 土屋 知省 様
祝 辞 日本貨物鉄道株式会社 代表取締役社長 田村 修二 様

5 平成26年度 本部表彰
「政府等関係機関への要望書」についての補足

7 平成26年度支部通常総会開催状況報告
エコレールマーク使用事例のご紹介

8 本部委員会合同企画
（講演、施設見学、委員会審議）

11 支部自慢 宇都宮支部

12 FREIGHT EYE

14 会員・エコレールマーク認定企業紹介
ダイキン工業株式会社

15 協会ニュース／リフレッシュクイズ

16 モーダルシフト 三菱電機株式会社静岡製作所

20 貨物駅の仕事ガイド 函館貨物駅

22 SPOTLIGHT 九州西濃運輸株式会社

24 トピックス

表3 今月号の「表紙写真」 今月号の「FREIGHT EYE」
JR貨物輸送概況

平成26年度 定時社員総会を開催

ご挨拶

公益社団法人 鉄道貨物協会

名誉会長 **米倉 弘昌**

定時社員総会を開催するにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

ご来賓の国土交通省鉄道局 次長 土屋知省様、日本貨物鉄道株式会社 代表取締役社長 田村修二様、ならびに会員の皆様には、本日はご多忙のところ鉄道貨物協会定時社員総会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

さて、わが国経済は、安倍政権の経済政策が功を奏し、緩やかながら着実に回復を続けており、4月1日に実施された消費税の引き上げによる影響も想定の範囲内にとどまっております。今後、経済対策や公共事業の執行の前倒しなどによって景気は下支えされ、夏ごろからは再び消費が上向いて経済成長を後押ししていくと見込まれております。こうした中、大量輸送･定型輸送に強みを持つ鉄道貨物輸送は、活力を取り戻しつつあるわが国の経済活動を支える基盤として、さらに重要な役割を果たしていくものと存じます。

鉄道貨物輸送は、東日本大震災からの復旧･復興にも大きく貢献しております。本年1月には、災害廃棄物広域処理のための鉄道貨物輸送が終了致しました。当協会と致しましては、今後とも、復興に必要な資材や、被災した地域で生産される産品の輸送などに、鉄道のネットワークが最大限活用されるよう、関係各方面に様々な提案や働きかけを行ってまいりたいと考えております。

また、環境保全の取り組みも重要であります。昨今、気象状況が不安定さを増す中、先般発表された国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告書では、地球温暖化について非常に厳しい予測が示されるなど、地球環境保全の強化は、国際社会にとって「待ったなし」の急務となっております。当協会もその一翼を担うべく、エコレールマークの普及促進など、環境を守るための活動にさらに注力してまいります。

当協会では、今後とも、行政等の関係機関の皆様との連携を深めながら、荷主企業会員、利用運送事業者会員、鉄道事業者会員など、会員の皆様と一体となって活動を進め、わが国の鉄道貨物輸送の一層の発展に貢献してまいる所存でございます。今後とも倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、ご来賓並びに会員の皆様方の益々のご繁栄とご健勝を心より祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

（代読：井上常務理事総務部長）

5月26日（月）に如水会館（東京都千代田区）において、平成26年度定時社員総会が開催されました。次第に従い進められ、全ての議案は原案通り承認されました。

次第

1. 開会
2. 名誉会長挨拶
3. 理事長挨拶
4. 来賓祝辞
5. 表彰
6. 議長選出
7. 議案審議
   - 第1号議案 平成25年度事業報告及び決算報告について
   - 第2号議案 役員の選任について
   - 第3号議案 平成25年度会員等の入会及び退会について
   - 第4号議案 政府等関係機関への要望書について
   - 【報告事項】平成26年度事業計画及び予算について
8. 閉会

ご挨拶

公益社団法人 鉄道貨物協会

理事長　**米本 亮一**

ただ今ご紹介をいただきました理事長の米本でございます。本日は時節柄何かとお忙しいところ、かくも多数の会員の皆様方にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

私ども鉄道貨物協会は、公益社団法人となりましてから既に2年半を超える日時が経過いたしました。その間貨物鉄道の認知度向上を期すということを基本に、諸々の活動を行ってまいりました。その間、荷主企業、利用運送事業者、鉄道事業者の各会員の皆様方には、多方面にわたりご指導・ご支援をいただきました。ここに改めて厚く御礼申し上げる次第でございます。

さて、ここで実践的な取組みの「具体例」を2～3ご報告申し上げ、私の挨拶に代えさせていただきたいと存じます。

まず1番目でございますが、当協会の最もベーシックなそして永遠の課題というべきものに、鉄道の利用促進、それから輸送品質の向上という課題がございます。これらについては本部及び支部に委員会や利用促進会議を設けて、お互いに有機的な連携を取りながら進めてまいりました。例えば荷主企業様のご協力を得て、両委員会合同で見学会を実施して、先進的な取組みとして段ボール箱への擦れ防止のための特殊塗装について教えていただき、広く会員の皆様方にご紹介することができました。この内容は本部委員会の今年度の報告書にまとめる方向で、今作業を進めております。また当協会のホームページにもこのことは記載してございますので、どうかご覧になっていただければ幸いです。

次にエコレールマークへの取組みでございます。順調に件数を伸ばしており、300件の大台の目前のところまで実績が上がってきております。小学校等の教育現場からも要請をいただき、当協会から代表者が出向いて地球環境問題と鉄道貨物輸送について説明してまいりました。この授業を聞かれた生徒さんから「これからはものを買うなら、エコレールマークが付いている商品を買うことにしよう」「鉄道利用が地球環境に大いに役立つことがわかりました」という感想が数多くあったとの報告を受けております。こういった現地に足を運んでの活動の積み重ねが一番大事なことでございます。例えば去る5月15日の日経新聞の社説に「これからは鉄道貨物の時代だ」という記事が掲載されました。これは関係当事者の大変なご努力があったればこそ、であることは言うまでもないことですが、私達の教育現場へ足を運んでの「出張型教室」も、その一助になったのではないかと思う次第です。目下自治体など各方面に学校の紹介をしてくださいとお願いしているところですが、皆様方にもお心当たりがあれば是非ご紹介をしていただければ幸いでございます。当協会としてはどこへでも飛んで行くというつもりですので、どうぞひとつよろしくお願いいたします。

3番目が貨物時刻表の発行でございます。これは今や単なる貨物列車の時刻表という域を超えて、鉄道貨物輸送の総合ガイドブックとして、あるいはやや大げさな言い方かもしれませんがバイブル的な存在として認識されつつあります。好調な売り上げ実績を示しておりまして、それだけ多くの人に買って読んでいただいて、有効に使っていただいている状況にございます。

以上、具体的ないくつかの活動の報告をさせていただきました。今後ともどうか変わらぬご支援・ご指導を賜りますようここに改めてお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様方を始め関係の皆様方のますますのご健勝をお祈り申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

祝 辞

国土交通省

鉄道局次長 **土屋 知省**様

本日、ここに公益社団法人鉄道貨物協会平成26年度定時社員総会が開催されるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

貴協会が昭和25年に設立されてから60有余年となり、この間、鉄道貨物輸送の発展のために、多大な成果をあげてこられたことに対し、心より敬意を表するとともに、日頃からの国土交通行政に対するご理解、ご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

鉄道輸送が、国民生活や我が国の経済を支える重要な輸送手段であることは言うまでもありません。

昨年度は、JR北海道の安全問題ほか大手事業者の事故等、鉄道の信頼性を揺るがす事態が発生し、皆様に大変なご心配をおかけしました。国土交通省ではJR北海道に改善命令を発出するとともに、各事業者の安全統括管理者会議を開催し、鉄道の安全・安心への信頼を回復すべく取り組んでまいりました。引き続き皆様のご理解、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

さて、東日本大震災から3年が経過しましたが、今年2月にも100年に一度という記録的大雪により、長野県、山梨県への物資が不足する事態が発生しました。その際、内陸部での石油や燃料の供給が緊急の課題となりましたが、東日本大震災の時と同様に、石油会社、JR旅客会社・貨物会社等のご尽力により、速やかな鉄道緊急輸送が実施されました。関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

昨年来、景気回復とデフレ脱却を目指す政策により、物流にも明るい兆しが見えてきているところです。また、トラックドライバーの不足感から、長距離輸送を中心に鉄道貨物輸送の役割を期待する声も高まりつつあります。

しかしながら、モーダルシフトを進める環境は、必ずしも十分に整備されているとは言えません。鉄道貨物輸送の更なる利用促進に向けて、荷主企業の皆様、鉄道利用運送事業者の皆様、JR貨物、そして私ども行政が一体となって協力し、知恵を出し合って、取組みを一層強化していく必要があると考えております。

国土交通省といたしましても、鉄道貨物輸送へのモーダルシフトを支援するため環境省と連携して、31フィートコンテナの導入補助や、低温物流・国際海上コンテナフィーダー輸送といった新たな分野の開拓など、鉄道貨物輸送の特性が発揮され荷主に選択されるよう、各種の政策支援に取り組んでいるところです。

また、エコレールマーク事業についても、認定商品数、企業数が着実に増加しています。昨年度は、小学校への「出張型教室」の実施や、認定企業様のご尽力によるテレビコマーシャル放映など、新たな取り組みが行われました。鉄道局としては、引き続き、認定企業や貴協会と連携した広報活動を推進し、より多くの消費者が「地球に優しい企業・商品」として選択頂けるよう努力して参ります。

今後とも、鉄道貨物輸送が最大限活用され、モーダルシフトがより一層推進されるよう、引き続き、関係者の皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、公益社団法人鉄道貨物協会のますますのご発展と、本日御列席の皆様方の一層のご繁栄を祈念いたしまして、私からの挨拶とさせて頂きます。

祝 辞

日本貨物鉄道株式会社

代表取締役社長 田村 修二様

ご紹介いただきましたJR貨物の田村です。鉄道貨物協会の皆様には、平素より大変お世話になっております。また、日頃のご支援、誠にありがとうございます。近況に加えて、昨今の弊社取り組みの変化など交えながらご報告申し上げ、挨拶に代えさせていただきたいと思います。

昨年は、上半期なかなか感じることができなかった「アベノミクス」の効果を、11月頃から実感できるようになり、コンテナ輸送量も前年を5%程度上回るほどになりました。この背景には、本年4月の消費税率の引上げとともに、トラックドライバーの不足感が急激に高まったことがあると思います。12月以降は、トラックの確保がままならない荷主企業様から鉄道コンテナの問合せをいただくなど、大きく潮目が変わりました。消費増税前の駆け込み需要により、年明けから3月まで高原状に荷物が増え、結果的に3月は12%増の貨物をお預かりさせていただきました。鉄道貨物輸送のネットワークを生かし、また利用運送事業者や荷主企業の皆様に配送日程の調整でご協力をいただきながら、最高効率を維持し、大きな混乱を生じることなく年度末をしめることが出来ました。新年度に入りまして若干の消費増税前倒し需要の反動は出ましたが、コンテナで対前年約4%増で荷物を出していただいており、順調なすべり出しと考えております。

こうした中、先ほど申し上げたトラックドライバー不足の深刻化により、モーダルシフトがクローズアップされてまいりました。昨年度は、交通基本法、総合物流施策大綱が閣議決定されるとともに、今般、物流施策アドバイザリー会議が開催され、労働力不足や国際海上物流などについて議論されることとなりました。鉄道貨物へのモーダルシフトを進展させるためにはどのような施策が必要なのか、こういった議論を、弊社からも委員を出しておりますので、積極的に発言していきたいと考えております。鉄道貨物協会の皆様にとって利用しやすい鉄道貨物輸送へと進化するためにも、行政、有識者の皆様としっかりとした議論を進めてまいりたいと思います。

一方、安定輸送の面から申しますと、昨年度は自然災害をはじめ、北海道で二度の貨物列車の脱線事故を起こすなど、鉄道輸送をご利用いただいているお客様を始め関係者の皆様に大変なご迷惑をお掛けした一年となりました。特に、脱線事故に関して、一度目は台風に伴う大雨、二度目はJR北海道の保線工事の不備による脱線事故でありました。保線作業の不備については、データの改ざん等も行われ、JRグループの安全管理体制に対する信頼が失われてしまったと感じております。弊社も鉄道事業者として、安全最優先の風土を確立すべく、鉄道輸送の安全の確保に全力を尽くす所存です。

平成25年度の決算を発表させていただきました。結果から申し上げますと、平成25年度は、下期に入り、景気回復や円安、消費税増税前の需要の盛り上がりを見せ、通期で黒字を確保いたしました。経常利益では34億円（前期比30億円増）を確保し、当期純利益は18億円となり、前期の4億円から14億円の改善となりました。しかしながら、弊社の経営資源の大部分を投入している、柱の鉄道事業については、営業損益レベルで△43億円という厳しい状況が続いています。

そこで平成28年度の鉄道事業黒字化の実現に向けた取り組みを一層強化するため、本年度から3ヵ年の「中期経営計画2016～鉄道事業の黒字化を実現～」を策定いたしました。より一層鉄道へのモーダルシフトを進め、往復での実入り積載のアンバランスを解消するため、社内の収支管理や営業の仕組みを大幅に変えております。これまで発駅において発側のお客様を主眼において営業活動に取り組んでおりましたが、今年度からは、着側のお客様を増やすことにも注力するような営業体制にいたしました。具体的には、発貨物をどれだけ獲得したかではなく、運賃売上のうち発側で7割、着側で3割を配分する収益管理を行い、それを営業評価に反映することで、営業マインドを一変させるような仕組みとしています。コンテナが空で回送されている区間に実入りの荷物を載せることで収支がいくら改善されるかなど、社員全員が考えて取り組む営業を導入しました。このように、鉄道事業の黒字化による事業継続のため、良い商品を作りながら増収とコストの削減の両面で努力を重ね、私をはじめ社員全員、背水の陣で臨んでまいります。モーダルシフトの大きなうねり、流れを自らの手で主体的に取り込み、拡大できる体制で頑張ってまいります。

以上、JR貨物の近況についてご報告させていただきましたが、鉄道貨物協会の会員の皆様には、今後とも、鉄道貨物輸送への暖かいご支援を賜りますようお願いを申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

平成26年度 本部表彰

本年度は、当協会事業の発展に功績のあった11名の方に対して「協会事業協力者表彰」が、鉄道貨物輸送に貢献された16名の方に対して「鉄道貨物輸送功労者表彰」がそれぞれ贈呈されました。

また、エコレールマーク商品へのマーク表示に加えて「ブルボンプチシリーズ」のテレビコマーシャルで大きな話題を呼び、当協会事業及び鉄道貨物輸送の発展に多大な貢献をいただきました株式会社ブルボン 代表取締役社長 吉田康様に協会初めてとなる「協会事業協力者表彰の特別表彰」が贈呈されました。

28名の受賞者の皆様に心からお祝い申し上げますとともに、一層のご活躍を祈念いたします。

協会事業協力者表彰の特別表彰

株式会社ブルボン　吉田　康様

協会事業協力者表彰

支部名	氏　　名	会社名・団体名
本　　部	園本 英孝	ハウス物流サービス株式会社
本　　部	中嶋 理志	株式会社日通総合研究所
北海道支部	大沼 泰三	株式会社大沼
東北支部	宝槻 直志	JAパールライン福島株式会社
東北支部	近藤 俊一	秋田運送株式会社
宇都宮支部	堀越 伸夫	日本オイルターミナル株式会社 宇都宮営業所
高崎支部	佐藤　正	安中運輸株式会社
水戸支部	瀬谷 益之	日立地区通運株式会社
東京支部	草皆　昭	株式会社丸和通運
北陸支部	針山 健二	伏木海陸運送株式会社
九州支部	反田 健二	三菱化学物流株式会社 黒崎支社

（敬称略）

鉄道貨物輸送功労者表彰

支部名	氏　　名	会社名・団体名
北海道支部	田中 裕幸	北海道西濃運輸株式会社
東北支部	中鉢　充	全国農業協同組合連合会宮城県本部
東北支部	曽根 利明	三八五通運株式会社
新潟支部	稲田　浩	株式会社ブルボン
千葉支部	山下 淳二	京葉臨海鉄道株式会社
東京支部	佐野 善一	天龍運輸株式会社
長野支部	藤澤 善三	岡谷運輸株式会社
静岡支部	林田 敦司	三菱電機株式会社 静岡製作所
名古屋支部	和田 利文	中京通運株式会社
近畿支部	冨永 澄男	ジーエス・ロジテック株式会社
近畿支部	野口 征浩	株式会社増田製粉所
米子支部	池田 文彦	山陰運送株式会社
岡山支部	松原 孝生	日本通運株式会社 三原支店
四国支部	木戸 栄次	住友化学株式会社 愛媛工場
広島支部	弘中 克治	日本ポリウレタン工業株式会社 南陽本部
九州支部	瀧内 貞男	株式会社ランテック

（敬称略）

「政府等関係機関への要望書」についての補足

公益社団法人 鉄道貨物協会

本誌6月号に掲載された「政府等関係機関への要望書」について、関係する事柄の直近の状況を補足いたします。

第4項「整備新幹線延伸により、鉄道貨物輸送の安定性に支障を来たさないための措置」のうち、北海道新幹線関係については、国土交通省 交通政策審議会 陸上交通分科会 鉄道部会 整備新幹線小委員会に設けられた、青函共用走行区間技術検討ワーキンググループ（WG）で、技術的な検討が行われているところですが、平成25年3月に「青函共用走行問題に関する当面の方針」が取りまとめられました。この中で、平成30年春から、在来線列車と新幹線列車が走行する時間帯を分けることにより高速走行を実現する「時間帯区分」を用いて、1日1往復の高速列車の走行を目指す、としています。

当協会としては、この「時間帯区分による新幹線列車の高速走行」が行われる場合であっても、鉄道貨物輸送が本州と北海道を結ぶ不可欠の物流インフラであることに鑑み、安全性が担保されるとともに、大量性・定時性・安定性等の鉄道貨物輸送の機能が損なわれることのないよう、確固たる措置を講じていただくことを、重ねて要望してまいりたいと存じます。

平成26年度 支部通常総会開催状況報告〈その1〉

平成26年度支部通常総会は、「支部運営規則」の定めるところにより全18支部で開催され、すべて原案通り承認されました。
各支部通常総会の開催状況は以下の通りです。次号と2回に分けて、開催日程順にご紹介します。

東京支部

● 期日：平成26年6月3日(火)
● 場所：芝弥生会館(東京都港区)

●次第
1. 支部長挨拶　川合支部長(日本通運(株)代表取締役会長)
2. 来賓挨拶　JR貨物専務取締役関東支社長　村山洋一様
　(公社)鉄道貨物協会理事長　米本亮一
3. 議題審議及び報告
　第1号議案　役員の選任と退任について
　報告事項1　平成25年度事業報告について
　報告事項2　平成25年度収支決算報告について
　報告事項3　平成26年度事業計画報告について
　報告事項4　平成26年度収支予算報告について
　報告事項5　平成26年度支部表彰報告について
　その他　関東甲信越支部連絡協議会について
4. 表彰式　東京支部発展功労者3名
　東京支部鉄道貨物輸送功労者8名

◆貨物セミナー　演題：「目からウロコの天気予報」
講師：気象予報士・防災士 南 利幸氏
天気予報図の豆知識など、大変興味深いお話を伺うことができました。

◆セミナー終了後に親睦会が開催され、関東運輸局長 又野己知様にご挨拶をいただき、参加者の皆様は相互に情報交換及び懇談が行われ、和やかに会を終えることができました。

講師の南氏

四国支部

● 期日：平成26年6月5日(木)
● 場所：JRホテルクレメント高松(高松市)

●次第
1. 支部長挨拶　竹﨑支部長(四国商工会議所連合会 会長)
2. 来賓祝辞　四国運輸局長　澤山健一様
　四国経済産業局産業部長　藤澤清隆様
　JR貨物関西支社副支社長　和氣総一朗様
3. 本部挨拶　中村エコレールマーク事務局長
4. 表彰　鉄道貨物輸送功労者表彰5名
5. 議長選出
6. 議題審議
　第1号議案　平成25年度事業報告及び決算報告について
　第2号議案　平成26年度事業計画及び予算について
　第3号議案　役員の選出について

◆講演会　演題：「パワーコミュニケーション」
講師：コミュニケーション・プロデューサー 夏川立也氏

エコレールマーク使用事例のご紹介①

エコレールマークとは、環境にやさしい鉄道貨物輸送に取り組んでいる企業や商品であると認定された場合に、商品やカタログ等につけることができる環境ラベルのことです。現在、認定企業83社、認定商品192品目、協賛企業20社がエコレールマークの認定を受けていますが、認定後にエコレールマークをつけることができる媒体は、以下の通りとなっています。

●取組企業認定の場合
環境報告書、ホームページ、名刺、カタログ(企業の取組説明に係る箇所)等
●商品認定の場合
商品、段ボール、カタログ(商品の告知･説明に係る箇所)等
※認定された企業以外の方は、エコレールマークを使用・表示することはできません。

このコーナーでは、認定企業がどのようにエコレールマークを活用されているのか、その使用例を不定期にご紹介して参ります。今回は、第30回エコレールマーク運営・審査委員会で認定を受けた亀田製菓株式会社です。

亀田製菓株式会社

【取組企業・商品認定】
商品パッケージ・段ボールへの表示

210g 亀田の柿の種6袋詰

※季節ごとの企画品等には、エコレールマーク表示が割愛される場合があります

120g ハッピーターン

エコレールマークについての詳細は、当協会ホームページをご参照ください。http://www.rfa.or.jp/ecorail/about.html

本部委員会合同企画
（講演、施設見学、委員会審議）

5月の本部委員会は、輸送品質向上委員会、利用促進委員会とも本部委員会合同企画として、それぞれ講演、施設見学が開催された。

輸送品質向上委員会（H26.5.29）

講師：JA全農 打田様

受講状況

平成26年度第2回輸送品質向上委員会では、委員会を3部制とし、時間を延長して実施した。

1. 第1部：講演（利用促進委員会オブザーバー参加企画）

A. 講師：JA全農 営農販売企画部 営農・技術センター 生産資材研究室 調査役 農学博士 打田 宏様

B. 演題：「鉄道・トラック輸送におけるリスク管理と新たな対策の提案」

C. 講演の目的

当委員会では、平成26年度の年間テーマ「鉄道コンテナ輸送の輸送品質向上に向けた荷擦れ・荷崩れ対策に関する調査研究と提案」に取組んでいる。今回の企画は、日本包装技術協会をはじめ数多くの研究発表をされている全農の打田様に講演いただき、専門家としての知見・経験を勉強するものである。

D. 講演の内容

1. 輸送包装の現状と課題
   （1）鉄道・トラック輸送におけるリスク管理
   （2）流通におけるリスク評価
2. 新たな対策の開発（振動制御理論をもとに）
   （1）AC段ボールの開発
   （2）ACトップの開発

E. 講演の特記すべきポイント

（1）AC段ボールの開発（集合緩衝包装）

a. イチゴなど軽い青果物は大きな加速度を受けることから、積荷挙動解析、イチゴの損傷の品目特性を把握し、AC段ボールを開発した。

b. 熊本イチゴ、和歌山イチゴで実用化し量販店からのクレームがなくなった。

c. 箱個々にわずかな緩衝性を付与するため包装コストは殆ど増えない特徴を持つ。

d. それぞれの付与する緩衝形状については限定していない。

e. 広く一般工業製品にも利用が可能

【特許第5295686号】

段ボールの底の部分に緩衝用のバネが設置されている

（2）ACトップの開発（Anti-Collapse,Crumble 崩れる）

積荷の上に載せて、揺れを抑える貨物用制振資材である。

路面や輸送車両からの振動は、床から貨物に伝わり、増幅されて積荷は大きく揺れる。特に最上段は大きく揺れるので注意が必要である。これは、長いゴルフクラブの飛距離が大きいことや、地震で高層ビルが大きく揺れるのも同じ原理である。輸送では貨物の最上段では2倍～数倍の揺れを示す。路面からの「入力低減」と積荷の「応答制御」が輸送品質を確保するために必要である。

ACトップは、高層ビルの耐震対策と同様に振動制御の工学技術を応用して開発した。
【特願2012-152351】

2. 第2部：フォークリフトメーカーからの発表（利用促進委員会オブザーバー参加企画）

フォークリフトメーカーより、荷擦れ･荷崩れ対応への技術的観点からの取組みについて、専門的な見地から発表いただき、情報の共有化を図る内容である。

A. 発表：ユニキャリア株式会社 大地委員

B. 発表内容：「フォークリフトの振動抑制試験結果について」

当委員会において、昨年度第2回委員会において、大地委員より「フォークリフトの振動改善」についての研究開発内容を発表いただいたが、今回は、「振動抑制試験結果」についての発表である。

発表する大地委員

3. 第3部：委員会審議

委員会審議は、年間テーマ及びサブテーマの取組状況について審議され終了した。

利用促進委員会(H26.5.21)

梶ヶ谷(タ)で説明を聞く委員の皆さん

梶ヶ谷(タ)ライナー7番線

隅田川駅概要説明の様子

IPC荷役ホームに入線する列車

平成26年度第2回利用促進委員会は、年間テーマ『鉄道コンテナの利用促進に向けた業種別の利用実態把握･課題の抽出と提案』及びサブテーマ『鉄道コンテナ輸送における養生材の効率的な回収システムについての調査研究と提言』の調査研究の一環として、「業種別の利用実態把握」と「養生材回収の実態把握」を目的とした現地調査のため、梶ヶ谷貨物ターミナル駅と隅田川駅の2つの貨物駅とその周辺の施設を見学し、見学終了後隅田川駅の会議室をお借りして、委員会審議を実施した。

1. 梶ヶ谷貨物ターミナル駅の見学

A. 駅構内の説明

駅本屋屋上から高田駅長により、駅の概要、川崎市の廃棄物輸送について説明を受けた後、バスで駅構内を見学した。

駅概要を説明される高田梶ヶ谷(タ)駅長

B. 資源物積替施設の見学

梶ヶ谷(タ)に隣接する資源物積替施設を訪問し、プラスチック製包装容器の積み替え作業を見学した。

2階の収集車から1階に設置された
「プラスチック製包装容器専用コンテナ」への積み替え作業

2. 隅田川駅の見学

A. 駅構内の説明

駅本屋会議室にて吉田駅長により、駅の概要について資料や映像を用いながら説明を受けた。

駅概要を説明される吉田隅田川駅長

B. (株)飯田町紙流通センター(IPC)倉庫の荷役ホーム見学

荷役ホームに入線した列車から荷降ろしして倉庫に入庫する紙製品について、荷降ろし作業だけでなく、その養生の方法や使用した養生材の回収作業などを見学した。

コンテナの内部まで熱心に見学される委員の皆さん

回収された養生材(隙間充填ボード)

C. 営業サポートセンターの説明

営業サポートセンターの業務の概要について、営業サポートセンターの佐々木所長(現在は関東支社営業部長)より説明を受けた。その後の質疑応答では、参加した委員より活発な質問があった。

説明される佐々木営業サポートセンター所長

3. 委員会審議

A. 年間テーマ『鉄道コンテナの利用促進に向けた業種別の利用実態把握・課題の抽出と提案』

5月に実施した荷主企業へのヒアリングの概要について委員会で報告し、内容について質疑応答を実施した。なお、今回ヒアリングに用いた「ヒアリング調査票」は、前回の委員会で求められた修正を盛り込んだものである

B. サブテーマ『鉄道コンテナ輸送における養生材の効率的な回収システムについての調査研究と提言』

5月に実施した養生材メーカー及び販売会社の計4社に対するヒアリングの概要を報告した。その他、利用運送事業者1社に対するヒアリングの概要と回収している養生材について写真を解説しながら報告した。

今後は、他の利用運送事業者や養生材の処理業者についてのヒアリングを進める予定である。

支部自慢（しぶじまん）

▶ 宇都宮支部の紹介

宇都宮支部は、東京から約90kmの距離、JR東北本線の石橋駅から徒歩約20分の所に位置し、昭和46年に開業した宇都宮貨物ターミナル駅構内のJR貨物北関東支店宇都宮営業所内に事務局があります。

宇都宮(タ)駅構内

営業所入口

◎当駅内にある機関車とシキ車

ハイブリッド型入換機関車
HD300

特大輸送を行うシキ車
（小山駅からの変圧器輸送）

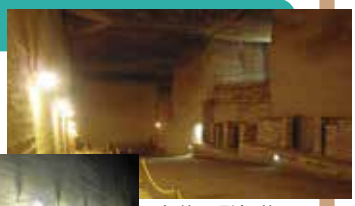
▶ 神秘的な石の町、宇都宮市大谷地区の紹介

宇都宮支部から、北西に20km程の場所に神秘的な石の町「大谷」があります。

この町は大谷石に育まれ発展した場所です。大谷石とは約2,000万年前、日本列島の大半が海中にあった頃、火山が噴火し火山灰や軽石が堆積して誕生しました。約100年前に採石が本格化され、大正中期に地下掘りの技術ができて、現在に至っています。

大谷資料館では一般の目に触れることのない「未知なる空間」、大谷石地下採掘場跡を見学することもできます。

地下空洞の広さは東京ドーム1個分に相当し、巨大な坑内の気温は平均8℃前後です。大谷石は鉄道でも各地へ運搬されています。


大谷石発掘後の空洞

写真の展示も行われています

◎大谷石を使った様々な建造物

大谷採石地に建つ岩壁から彫られた平和観音

宇都宮市の中心地にある大変珍しいロマネスク様式の教会

町並みにあるお洒落なカフェ

支部事務所にある大谷石のカエルが皆さんの「無事かえる」を待つ

一般家庭の石塀や、農家の米等貯蔵庫として使用する石蔵。どの街を歩いても一度は目にとまり、馴染み深い温かみのある大谷石です。

▶ 味自慢

◎消費量No.1 宇都宮餃子

＊宇都宮餃子の食べ方＊

餃子のみを一人で2～4人前注文、「焼餃子」と「水餃子」があり、お好みでチョイス。餃子はやや小さめで焼き方にパリパリ感があり、あつあつを頬張って。(ヤケドに注意)

水餃子は熱いスープの中に餃子が浮かび、酢やラー油等でお好みの味にします。

◎ボリューム満点手打ちうどん

宇都宮営業所や駅に訪問の際、一度はチャレンジする価値のある味自慢の手打ちうどん。

特盛りの量は1.2kg（太麺）、食べきることができるでしょうか？

（コシが強く一度食べたら忘れられない味）濃い目の肉汁に浸けて食べます。

御立ち寄りの際には是非チャレンジを！

宇都宮支部　〒329-0524　栃木県河内郡上三川町大字多功字上の原2970 JR貨物 宇都宮営業所内
TEL：0285-53-1709　FAX：0285-52-0319

ダイキン工業株式会社

〒530-8323 大阪市北区中崎西二丁目4番12号 梅田センタービル

環境貢献を柱とし、世界をリードする技術で社会に貢献します

ダイキングループは、「空調」と「フッ素化学」の技術を両輪に世界中のあらゆる生活シーンを豊かにする製品を提供しています。強みとする省エネルギー技術を用いて、エネルギー使用量の抑制に貢献する製品・サービスを開発・提供することで、社会の持続的な発展に貢献します。

空調事業

環境と快適性の両立を追求し、世界中のあらゆる空調ニーズに応える製品を提供し続けます。

● 給油・暖房で…

ダイキン
エコキュート

● 住宅用空調で…

ルームエアコン
「うるるとさらら」

● 業務用空調で…

ビル用
マルチエアコン

化学事業

世界一の製品群を誇るフッ素化学品を開発しています。

● 自動車で…

フッ素ゴム

● 蓄電池、太陽電池で…

太陽電池向け材料

リチウムイオン
二次電池用材料

● 冷凍・空調機器で…

フルオロカーボン

空調機の鉄道輸送

ダイキン工業(株)の物流本部は全社サポート部門として国内・海外の物流を担当しています。「CQEST」※1を業務運営のキーワードにグローバルエクセレントNo.1にふさわしい物流を目指すと同時に、安全・CSR活動を「愚直に力強く」推し進めています。

中でもCO_2排出量の少ない鉄道利用の拡大取り組みを推進しています。特にモーダルシフトを進めているのは、空調部門の国内生産拠点のある関西から500キロ以上の東京・福岡配送センターへの輸送です。

2003年に利用運送事業者が製作したダイキン工業のロゴと「ぴちょんくん」付き31ft私有コンテナを、家庭用・業務用空調機の東京配送センター向け輸送に、梅田～越谷夕間で利用を始めました。その後、各社が共同使用するSGSコンテナを一日9個、一昨年末からJR貨物保有のコンテナを福岡配送センター向けに利用開始して、現在31ftコンテナを1日14個、両配送センターへ発送するまでに拡大させています。

※1 コンプライアンス、コミュニケーション、コストのC、クオリティーのQ、エコロジーのE、セイフティー、スピードのS、テクノロジーのTの略

ロゴ入り私有コンテナ（導入時）

荷主側の取り組み

鉄道利用拡大の過程では、物流技術部門を包含している物流本部（荷主）ならではの取り組みを展開しています。輸送品質向上対策や積載効率追求のための独自積付け設計等の「物流技術面の工夫」のみならず、「総合的なコストや物流フローの検証」をも実施しています。

JR 貨物48Aコンテナへの積込み

今後の取り組み

鉄道利用をさらに拡大するために、

- コンテナ寸法に合わせた梱包包装のモジュール化や積み付けパターンを検討します。
- 鉄道輸送へシフトする対象を500キロ以内の中距離輸送に広げることを視野に入れ、JR貨物や利用運送業者との連携を図りながら、混載便や共同化について検討します。

協会ニュース

平成26年7～8月 行事等の予定

本　部

7月　2日(水)／会誌編集委員会(本部会議室)
7月10日(木)・11日(金)／全国事務局会議(神戸市)
7月16日(水)／第3回利用促進委員会(本部会議室)
7月23日(水)／第3回輸送品質向上委員会(物流施設見学)
8月　6日(水)／会誌編集委員会(本部会議室)

北文館 函館駅店

お知らせ

北文館 函館駅店で6月6日より、うつのみや 金沢百番街店で6月20日より貨物時刻表の取扱いを開始しました。これにより貨物時刻表取扱い書店は全国で42店舗に拡大しました。

- **北文館 函館駅店**
  北海道函館市若松町12-13 JR函館駅内
  電話：0138-23-5023　営業時間：6:00～19:30
- **うつのみや 金沢百番街店**
  金沢市木ノ新保町1-1
  電話：076-260-3818　営業時間：10:00～20:00

うつのみや 金沢百番街店

支　部

- **北海道支部**　7月29日(火)・30日(水)／支部役員施設見学会(王子製紙(株)苫小牧工場)
- **名古屋支部**　8月21日(木)／夏季セミナー(名鉄ニューグランドホテル・名古屋市)

鉄道貨物協会
入会のお誘い

あなたも鉄道貨物輸送の応援団になりませんか？

会員になっていただくと、以下の特典があります
①会誌「マンスリーかもつ」を毎月お届けします
②各種セミナー、講演会、見学会等にご参加いただけます（ご入会の支部により内容は異なります）
③個人会員の方は貨物時刻表を割引価格でご購入いただけます
詳しくはこちらから ☞http://www.rfa.or.jp/admission/index.html

MONTHLY かもつ・7月号　第64巻・第7号　2014年（平成26年）7月1日発行（毎月1日発行）

発行／公益社団法人 鉄道貨物協会
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-8-4 吹田屋ビル4階
☎03-5256-0577　FAX03-5256-9220
鉄道貨物協会インターネットホームページアドレス http://www.rfa.or.jp

編集／ 公益社団法人 鉄道貨物協会・日本貨物鉄道株式会社
（株）ジェイアール貨物・リサーチセンター
印刷／（株）恒陽社印刷所活版事業部

エコレールマーク

それなら私も買おうかな

エコレールマークは、鉄道貨物輸送で地球環境に貢献する企業や商品を認定するマークです。

認定基準

エコレールマークを取得するための認定基準は次の通りです。

商品認定

500km以上の陸上貨物輸送の内、鉄道利用で、数量または数量×距離の30%以上。

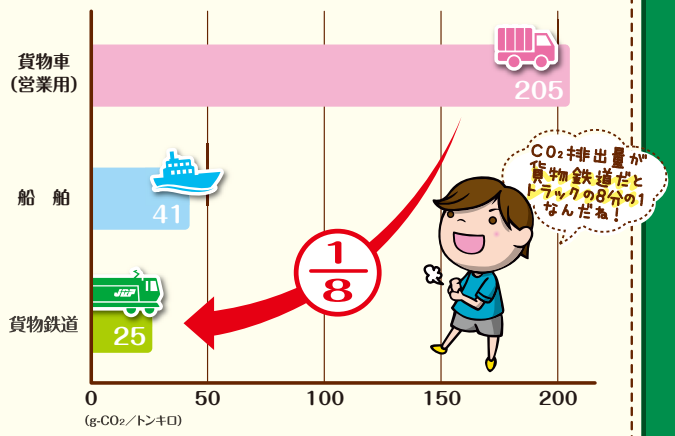
取組企業認定

500km以上の陸上貨物輸送の内、鉄道利用で、数量または数量×距離の15%以上。
もしくは、年間鉄道利用数量1万5千トン以上または数量×距離1,500万トンキロ以上。

輸送機関別のCO_2排出量原単位

モーダルシフトの効果

輸送機関別のCO_2排出量原単位（1トンの貨物を1km輸送したときのCO_2排出量）：2012年度実績



国土交通省総合政策局環境政策課ホームページ「運輸部門における二酸化炭素排出量」を基に作成

国土交通省 鉄道局貨物鉄道政策室
●TEL 03-5253-8111／内線 40254 ●http://www.mlit.go.jp/tetudo/

公益社団法人 鉄道貨物協会
●TEL 03-5256-0580 ●http://www.rfa.or.jp/

MONTHLY かもつ
平成26年7月1日発行（毎月1回1日発行）昭和26年3月12日 第三種郵便物認可
MONTHLY かもつ 7月号 第64巻 第7号 本体価格400円（税・送料別） 会員の購読料は年会費に含まれます）
ISSN 0913-9850